

『研修設計マニュアル』計量テキスト分析の試み

Quantitative Text Analysis of *Training Design Manual*

鈴木 克明

Katsuaki SUZUKI

熊本大学大学院 教授システム学専攻

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

〈あらまし〉 人材育成の文脈でインストラクショナルデザインの基礎を扱った大学院レベルの教科書について、計量テキスト分析を行った。55,278 語を対象とした分析結果では、4,544 文で 5,528 語の異なる語句が用いられており、最頻出語句は「研修」(1,722 回)で、次に「学習」「組織」「自分」「評価」「必要」「行動」「受講」「目標」が続いた。対応分析の結果、課題 4 に関する章で他と比べて独特な語句が用いられる傾向がみられた。

〈キーワード〉 インストラクショナルデザイン 計量テキスト分析 KH Coder 研修設計

1. はじめに

人材育成の文脈でインストラクショナルデザインの基礎を扱った大学院レベルのテキスト『研修設計マニュアル』を刊行した(鈴木 2015)。本発表では、鈴木・合田(2013)の手法に従って、本書の概要をより客観的に把握するために行った計量テキスト分析の結果を報告する。

2. 研究方法

計量テキスト分析ツール KH Coder を用いた。翻訳版の入稿時本文テキストデータをもとにして、本書の構成(5部・11章)に従って<h1><h2>タグを挿入した。分析前処理では、本文で用いられている略語「ID」「ROI」「HPI」「HPT」「HRD」「SME」「eラーニング」を強制抽出語に指定した。

3. 結果と考察

KH Coder は、テキストデータに含まれている総計 135,012 語のうち 55,278 語を自動抽出した。合計 4,544 文で 5,528 語の異なる語句が用いられており、最頻出語句 100 語は表 1 に示す通りで、「研修」が 1,722 回でトップだった。次に「学習」「組織」「自分」「評価」「必要」「行動」「受講」「目標」が続いた。

図 1 に共起分析(段落ごと、最小出現数 90 回)の結果を示す。また、課題ごとの頻出語句の特徴を調べた対応分析(最小出現数 90 回)の結果を図 2 に示す。個別の研修プログラムの設計に関わる他の課題に比べて、研修担当部

門や担当者としての自己成長を扱った課題 4 に関する章に異なる語句が用いられている傾向が見られた。

謝辞

本研究は、科研費基盤研究 B(課題番号: 23300305)の補助を受けたものである。

参考文献

鈴木克明(2015) 研修設計マニュアル: 人材育成のためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房
鈴木克明・合田美子(2013)『インストラクショナルデザインとテクノロジーの動向と課題(仮)』計量テキスト分析の試み. 日本教育工学会第 29 回全国大会(秋田大学) 発表論文集, 679-680.

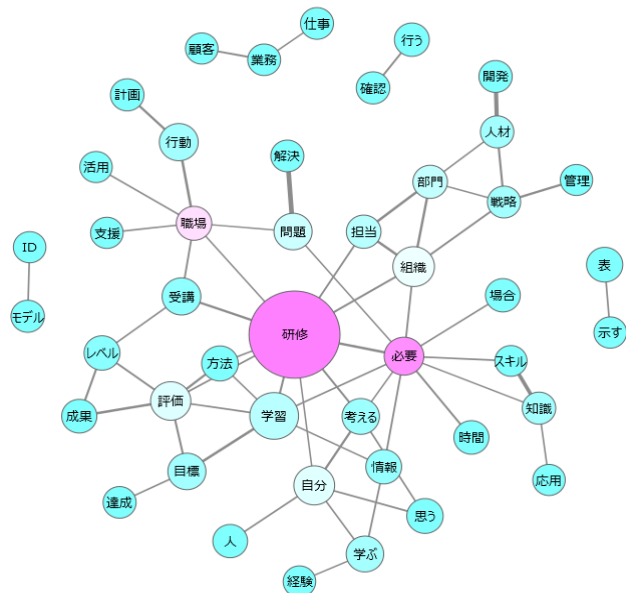


図 1 共起分析の結果

表1 最頻出語句100語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
研修	1722	部門	159	示す	107	次	83
学習	552	効果	140	経験	104	多い	83
組織	354	調査	136	年	104	変化	83
自分	332	課題	135	ID	103	視点	82
評価	316	結果	134	支援	103	設計	82
必要	299	計画	131	社員	103	テスト	81
行動	278	確認	130	顧客	102	文化	80
受講	275	知識	130	応用	101	求める	79
問題	258	提案	130	活用	100	システム	78
目標	256	モデル	129	職務	99	実現	78
学ぶ	240	人材	127	内容	98	妥当	77
考える	238	可能	126	改善	97	見る	76
事例	224	教育	126	管理	97	項目	76
方法	215	分析	126	自己	96	事前	76
思う	209	開発	124	選択	96	書く	76
表	205	戦略	122	理由	96	状況	76
レベル	196	実施	118	スキル	92	役割	76
情報	194	解決	117	目指す	91	ニーズ	75
職場	183	仕事	117	前	90	学び	75
成果	176	使う	116	例	90	知る	75
時間	172	達成	116	言う	88	プロセス	74
行う	167	業務	113	持つ	88	経営	74
場合	166	章	111	変容	88	上司	72
人	164	専門	110	eラーニング	86	得る	72
担当	161	教える	108	工夫	84	用いる	72

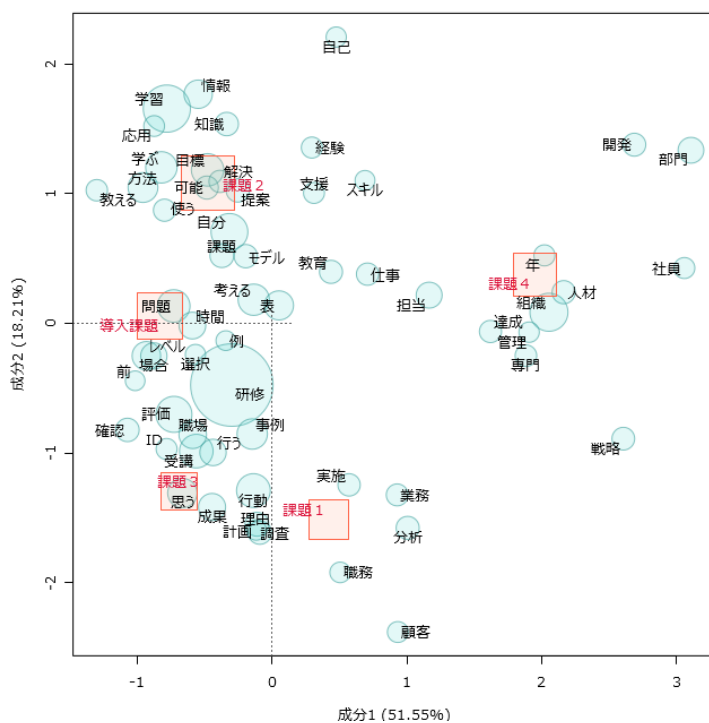


図2 対応分析の結果